

## 令和 4 年度 大学活性化経費 事業成果報告書

事業区分 (6) その他、大学の活性化に貢献する取り組み

申請組織 学務部学生課

申請組織長 役職名 学長補佐 氏名 内藤 通孝

統括責任者 役職名 学生課長 氏名 高木 康男

課題名 学生サポーター制度の活動補助

	役割	氏名	所属・役職名	役割分担
事業組織	統括責任	高木 康男	学生課長	学生サポーター運営管理者
		武田 智登世	学生課長補佐	学生サポーター運営管理補佐
		加治 瞳美	学生課職員	学生サポーター運営担当
		森田 美恵	学生課職員	学生サポーター運営担当

## 1. 事業開始の背景・経緯や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

学生サポーター制度は、学生が自ら参加する、学生が中心の活動を支援するもので、「学生による学生のための制度」である。「人間になろう」に通じる、お互いが支え合い助けること、先輩と後輩と一緒に活動すること、その結果として学生生活が充実したものになることが目的である。活性化経費においては学生サポーターが企画し、実施する活動費用を支援するために申請し、採択されたものである。学生サポーターは、活動内容から「ピアカフェ」、「ライブラリーサポーター」、「ピアキャリア」、「留学生サポーターズ」に分類されるが、本事業においては「ピアカフェ」、「留学生サポーターズ」の活動の経済的支援を行う。コロナ禍においては、オンラインによる活動が主となったが、本年度においては、対面の活動を基本として実施することとした。

## 2. 事業方法 (特色・独創性) 等 (300 字程度で記述)

学生サポーターの活動は、新入生を対象としたサポート活動と在学生同士の交流を主に実施する。前期の活動としては、入学して間もない新入生が安心して学生生活をスタートできるよう、教室やキャンパス施設の場所・利用案内や常行、資格取得に対する漠然とした不安、その他課外活動やアルバイト全般に係るアドバイスなどを行う。後期には、引き続き 1 年生が前期にうまくいかなかったことなどの解決方法のアドバイスなどを行うこと、及び後期から受け入れた留学生の日本での学生生活のサポートを行うことや、学生同士の交流イベントや留学生の日本文化体験について実施する。事業組織としては、学生サポーターが計画した内容、費用積算を確認し、アドバイスすることで、イベント等を実現可能ものとする、及び業者への発注、支払といった事務処理を行う。

### 3. 事業の成果 (600字～800字程度で記述)

学生サポーターにとっては、自分たちで考えて行動したり、企画・立案をしたりする中で課題発見や解決などの能力の育成につながった。

新入生にとっては、教員・職員のみならず、先輩学生のサポートを受けることによって、入学後の不安が軽減・解消され、大学生活に早くなれることができる。また昨今の学生の交流において交流範囲の狭さがよく見受けられるが、本事業の推進により学生同士の交流の機会を増やし、学部・学年・人種の垣根を超えた横断的な関係性を築くことができた。このことから、視野を広げた新たな人間関係の中での自分の居場所を見つけられることもあったと思われる。

留学生にとっては、来日後の不安が軽減・解消され、日本での生活に早くなれることができたと思われることや、日本人学生との交流により、自国の文化や同世代の人との考えやライフスタイルの違いなども理解できたと思う。これは、日本人学生にとっても同じである。

事業組織にとっては、他大学の取り組み事例や研修会で制度活性化に必要なものを学ぶことによって、本学の制度をより充実したものにすることができたことや、学生が本学に対して期待していることなどが把握できる機会になった。

### 4. キーワード (本事業のキーワードを1つ以上8つ以内で記載)

①学生サポーター	②	③	④
⑤	⑥	⑦	⑧

### 5. 事業の達成状況及び今後の課題 (事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。)

- ・ライブラリーサポーターとピアキャリアについては、学生の参加者数は安定しているが、ピアカフェや留学生サポーターズは、コロナ禍において活動が縮小したこともあり、参加学生数が多くならないため、来年度以降の参加者を増加させる方策として、PR活動を継続して実施する。まず、入学式に実施する課外活動紹介で新入生に向けてピアカフェ活動のPRを行う。
- ・留学生の受入が前期、後期とも増加してくることを見込み、留学生サポーターズへの参加学生を増やしたい。